

平成30年度 大本山永平寺孝順会総会 北信越結集



平成30年度孝順会総会、曾我ひとみさんと 於・佐渡市 6月28日

昨年、僧侶の研修会で二回続けて佐渡へ行く機会がありました。その中で、北朝鮮による拉致被害者の曾我ひとみさんのお話をお聞き致しました。

曾我さんは、一九七八年（昭和五十三年）、お盆前日の八月十二日夕方、五百ほど離れた雑貨屋へお盆の準備の品を買いに行つて自宅まで百餘程の処で、母ヨシミさん（昭和六年生まれ）と共に北朝鮮工作員二人に拉致されました。その直後、お二人は離れ離れになり、お母様はいまだに帰つて来ておられません。

ひとみさんは、北朝鮮で元アメリカ兵のジェンキンスさんと結婚

し、二人の娘さんに恵まれます。そして、二〇〇二年十月十五日に帰国され、二年後に夫と二人の娘さんも帰国されました。

その後、帰国が果たされないお母様の救出の為、講演と署名活動を一所懸命にしておられます。朴訥とした語り口での佐渡での講演の中で、とても印象深いお話がありました。曾我さん一家は、国の監視下に置かれていて居住地以外への外出が制限され、子供たちの入学式・文化祭・運動会・卒業式などの学校行事に参加できないばかりか、遠くから見ることも許されなかつたそうです。子を持った親として一番の幸せを感じる時を奪われたのです。そんな生活の中で、娘さんたちのある年の運動会、ひとみさんは参観が許されず、昼食は子供二人で食べるしかありませんでした。その時、娘さんの友達のお母さんが「一緒に食べよう」と手招きし、自分の子供たちに作ってきた食事を分けてくれたそうです。決して裕福な家庭ではなく、食糧事情も悪いのに「遠慮せずにお食いなさい」と言ってくれたというのです。このお母さんの行為に対して、ご自分のお母様は拉致されたままなのに、「北朝鮮の人達は、生活は苦しくとも皆気持ちの良い方々だ」と語られた曾我さんの優しさが、私にはとても心に響きました。

お釈迦様は、修行者たちに次のような願いをもつて生きなさいとお示しくださいました。

目に見えるものでも、見えないものでも、遠くに住むものでも、近くに住むものでも、すでに生れたものでも、これから生れようと欲するものでも、一切の生きとし生けるものは、幸せであれ。

スッタニパータより

仏教のみ教えを信じ生きる私たちは、お釈迦様から託された願いを自らの願いとして現代社会を生きていくことがお互いの幸せに繋がってくると、私は信じます。

曾我ひとみさんの講演をお聞きして
お釈迦様から託された願いを、自らの願いとして
東龍寺住職 渡邊宣昭

龍 声

東龍寺報
平成元年三月廿五日創刊
発行編集所 〒959-1502
新潟県南蒲原郡田上町
曹洞宗 東龍寺
電話 (0256) 57-3395
FAX (0256) 57-2174
ホームページ
<http://www.ginzado.ne.jp/~ryusei/>
E-mail
ryusei@ginzado.ne.jp

微力ながら、曾我さんのお母様始め、拉致被害者の救出を願う署名活動のお手伝いをさせていただくと共に、北朝鮮を含めたすべての人々、生きとし生けるものの幸せを願っております。

合 掌

第十七回東龍寺眼蔵会に随喜して

村上市 善福寺 副住職 細野 徳彰

平成三十年七月に東龍寺様にて第十七回眼蔵会が開催されました、私は今回で二度目の参加でしたが東龍寺様の眼蔵会に参加させて頂くきっかけは福井の大本山永平寺で修行中に東龍寺様のご住職、渡邊宣昭老師に眼蔵会に参加してみないかと誘って頂いたのがきっかけでした。



第17回眼蔵会 中日(7月6日)講本行持の巻(三回目)

昨年本山から戻った私は折角のご縁を頂いたのだから有難く参加させて頂いたのですが昨年も感動した事が多数あり今年も眼蔵会に参加させて頂きました。「正法眼蔵」を一般の方々と一緒に参究させて頂いた訳ですが大学の講義以外で「正法眼蔵」を参究することが出来るというのはとても有難いことであります。また先ほど私が修行させて頂いた大本山永平寺でも眼蔵会が行われているのですが、私は三年間の修行の中で「正法眼蔵」を参究する中でいくらか真剣に聞いていても一度や二度では理解できない所が多数あり悔しく思っていたので東龍寺様の眼蔵会に初参加させて頂いた時は感



香菜(漬物)を給仕する筆者

動を覚えしました。また一般の方に対して坐禅指導、飯台指導を行い共に東龍寺様の僧堂にて僧侶の呼び方で「典座」と呼ばれる方々が一生懸命作って下さったご飯を食べる事ができ、僧堂で同じ単の上で朝の坐禅、夜の坐禅と共に過ごすことが出来る、宗教離れしている現代に大切な関心を持って頂くことが出来る、これがこれからの宗門に必要なことなのではないかと改めて感じました。また法要に生まれた日「花祭り」とも呼ばれている釈尊降誕会、これらの法要は我々僧侶にとっても有難い法要であります。他にも法堂を使ったヨガ教室、写経と盛りだくさんの行持の中で参加者と最終日前日に行う茶話会の触れ合いはとても新鮮な気持ちになりました。継続は力なりという言葉が有りませんが一年、二年と東龍寺様の眼蔵会に参加して出来なかつたこともこれから参加を重ねて出来るようになったらいいなと思います。(当原稿は、平成三十年秋に頂きました。)

住職より一言

細野師は、私が永平寺に奉職していた平成二十六年春に修行に来られました。お母様が大学一年生の時にお亡くなりになり、大きな悲しみを背負われたのでしようが、全ての行持に明るく前向きに取り組んでいる姿がとても印象に残っています。

師は、本山をお暇した平成二十九年から拙寺眼蔵会、平成二十九年に発会した新潟県第四宗務所布教師会に積極的に参加しておられます。

特に布教の研鑽に意欲的でこれからの飛躍が楽しみです。

田巻家を引き継いで

東京都 田巻 亮 輔

約一年間の病床生活の末、平成二十八年十月に父文三が他界しました。葬儀は東京で執り行い、東龍寺様にも駆けつけて頂き、滞りなく修めることができました。

生前の父は明るく人当たりの良い人で、隠し事なく素直に話をする人でした。そのため、生前の父から家のことや資産のことと等、いろいろと聞いて理解しているつもりでおりました。相続や承継の手続きを進めるため、多くの親類や交友関係、取引先を訪ねる過程で、話を聞き、資料を確認すると、父の知らなかった一面や、家督を守るための苦労など、これまで知らなかったことが多く、驚くこともしばしばありました。生前にもっといろいろと話ができていればと、今でも思う時があります。



両大本山より頂いた常恒会昇格の許可証 明治26年~27年

話は変わりますが、曾祖父の堅太郎が建てた当家にゆかりの深い「椿寿荘」で、父の一周忌と三回忌のお齋を行いました。その際には、昨年築百年を迎えたにもかかわらず、荘厳な建物が当時の状態のまま保存されていることや、農家への不況対策として建築した曾祖父の思いに改めて思いを馳せました。またそのような場所で法事を行えることは、とても感慨深いことでした。

これ以外にも東龍寺様に山門や開山堂など、当家を偲ぶものが残っています。現在は東京に住んでいるため、田上町を訪れるのもお墓参り等で年一〜二回程度となりませんが、こうして先祖が残したものを未だに直接触れて感じる事ができるのは、他の家ではあまりなく、とても貴重な経験だと思えます。



田巻文三氏、壹周忌の折、椿寿荘にて筆者2列目右端 平成29年10月8日

今でも家族や親類で時々、亡くなった父や祖父父母の話をすることがあります。亡くなった家族の思い出を語ったり、先祖の遺したものに触れることは、学ぶことが多いと感じました。また同時に、先祖や父が遺した様々な物や思いを大切に引き継いで、自分が将来に伝えて行くことがとても大事であると感じています。

住職より一言

田巻家は、東龍寺の中興開基家として、江戸末期から、昭和二十年代まで、大檀頭家とお呼びし、多大の貢献を頂きました。



本寺五泉市吉祥寺様から頂いた、中興開基の賞証 明治29年5月

錦秋の早朝坐禅体験

燕市南町 中 川 徹



大本山永平寺吉祥閣大講堂にて、筆者前列右より3番目
平成28年6月26日

私は三年前、念願であった永平寺様の参籠と参禅を春と秋に体験させてもらった時、布教部部長の渡邊宣昭様にお目にかかり、海外はもとより全国から集まった参加者の中から、同じ新潟県人という事で、お声をかけてくださり、禅堂で直接、姿勢のご指導もいただきました。

この時の感動を燕の坐禅の仲間々に伝え、「是非とも一度は永平寺様に行つて本格的な坐禅をさせていただきましょう」と誘ったところ十六名が集まり、翌年六月下旬

の参籠研修を申し込みました。友人達は、厳しい修行内容をテレビで観ているので不安と期待で胸を膨らませておりました。当日バスを仕立てて行き、おそろのおそろ門をくぐりましたが、渡邊老師様は、お世話して下さる大勢の修行僧の方々をまとめ指導しておられ、私達初心者にきめ細やかな気配りと采配をして頂いたお蔭で無事終了しました。帰りのバスに乗った途端、強い緊張から解放され、口々に感激し感動し喜び合いました。その後の便りで十月に四年間のお勤めを満了なされ、お帰りになられた事を知り、ご縁というのは不思議なものだと思つづく感じ入りました。

しばらくして東龍寺様から『眼蔵会』のご案内を頂いたので参加させてもらったところ角田先生のご講義と典座の方を始め



早朝坐禅を終えて、東龍寺本堂にて、筆者前列右より2番目 平成30年10月28日

大勢のお坊様、ご家族様、それぞれの献身的なお世話を受け、永平寺様に伝わる道元禅師様の教えを忠実に踏襲されておられるのには大変驚きました。

この事も仲間話し、今年、渡邊老師様に坐禅のご指導を願いましたところ快諾を頂け、十月二十八日の早朝、ほぼ同じメンバーで紅葉に包まれた照光殿に坐らせて頂いた後、本堂でお勤めと、開山堂も参拝し、歴史に思いを馳せることも出来ました。新潟の護摩堂山の麓に門戸を大きく開かれ、このように禅の教えを広めておられるのは、ありがたく、渡邊老師様に深く感謝致します。(当原稿は、平成三十年秋に頂きました。)

〜 住職より一言 〜

中川さんは、「燕禅道友会」の代表として、燕市内の公民館で定期的に有志の方々と坐禅に親しんでおられます。そして、東龍寺に坐禅堂ができた平成十一年暮れから、関心を持って下さり、何回か月例坐禅会に来られ、そのご縁で、永平寺への参禅、東龍寺の眼蔵会の参加と積極的に仏道修行に取り組まれ、大変ありがたく存じます。

奥様はじめ、良き仲間と共にこれからも坐禅に勤しんで下さることを願っております。

眼蔵会案内

第十八回眼蔵会を七月三日(水)〜五日(金)に行います。是非、ご参加ご修行ください。

東龍寺様とのご縁

新潟市中央区

丸 山 ゆかり

私が東龍寺様の梅花講員となり、早くも三年が経とうとしています。新潟市中央区に住む檀家でもない私が、なぜ今このように、東龍寺様の梅花講員にさせていただいているのか、自分でも不思議でなりません。

五年前、長年勤務していた会社を退職した頃から体調を崩し、それまで全力で仕事・家事・育児に突っ走ってきた生活が一変してしまいました。前向きだった私も、身体の不調に気持ちも滅入る日々でした。

そんな時、親戚から「とても良いお寺があるから、そこへお参りに行くといいよ。」と、助言してもらいました。言われた通りに東龍寺様に伺い、山門を潜り境内へ入ると、清らかな空気をすぐに覚える事が出来ました。その後、坐禅会を行なっている事も知り、何度かお参りに伺っていたある日、現住職の母である大奥様に、坐禅会に参加しても良いか、お尋ねしました。すると快く「お越しく下さい。」とおっしゃって下さいました。

そして、初めて坐禅会に参加いたしました。何もかもが初めてで心細かったのですが、坐禅に参加していた梅花講員の新保さんが、声を掛けてくださり、その時に東龍寺梅花講へのお誘いを頂きました。後日、御



梅花講忘年会 筆者後列右端 平成30年12月5日

稽古の様子を見学させて頂き、講員となったのです。梅花講員の皆さんは、丁度私の母と同じ位の年頃の方が多いのですが、とても優しく、親切な方ばかりです。私は二十歳の時に母を亡くしております。御稽古の時、皆さんと居ると、母と一緒にいるような安心感に包まれます。こんな未熟な私を御仲間に加えてくださり、本当に有難うございます。

もう一つ、東龍寺様と不思議なご縁を感じたことがあります。それは、東龍寺様の御住職に四代に渡って仕えられ、禅鏡寺御住職であった寒川昭英庵主様が、私が保育園年少組の時の担任の先生だったことを最近知りました。今から五十年近くも前の事で、それ以来お会いする機会は無かったのですが、東龍寺様に飾ってある写真を見て、大奥様にお尋ねしたところ、お寺にご縁のある先生だったとわかり、大変驚きました。幼い頃のご縁が東龍寺様と結びついていたので。全てが目に見えない大きな力に導かれ繋がっているのだと実感しています。

今は健康を取り戻し、再び仕事に就いて忙しい日々を送っておりますが、仕事が休みの日に梅花講の御稽古に東龍寺様をお参りすることが心の支えになっております。檀家でもない私を快く導き入れてくださった大奥様、坐禅会に参加した時などにお声を掛けてくださった方丈様、本当に有難うございます。東龍寺様の梅花講員に加えていただいたことに心より感謝しております。これからも御指導よろしくお願いいたします。

住職より一言

丸山さんは、平成二十八年に東龍寺梅花講に入講され、遠路、お務めを遣り繰りしながら、通って下さっています。

年齢が上がりつつある梅花講にあつて、貴重な存在です。今年、寒川昭英老庵主様の二十七回忌になります。不思議なご縁を感じています。どうぞ、益々のご精進を期待しております。

知ること、分かること

インド研修旅行レポート

神奈川県 大湊 加奈子



エローラ石窟(第10石窟仏教窟) 筆者後列右から三番目 平成30年2月26日

らったのですが、礼拝堂では緻密な装飾、そして宿泊所では整然と立ち並ぶ柱など、その場所その場所目に見えるものは異なる印象のものです。しかし、全体を通して感じたものがあります。それは石窟の巨大さでした。

研修旅行前にパンフレットを頂いていて、もちろん、そこには石窟寺院の写真も資料も載っていました。事前にそれを見ていた私は、なんとなくその場所を分かったような気になっていたので。しかし、実際にその場所へ行き、その場所を体感して感じるモノは、その分かっていったようなモノとは全く異なっ

日常生活において仏教と関わる事の少ない私が、今回ご縁をいただき、海外研修旅行に参加させていただきました。参加前は、仏教についても経典についても知識の浅い私が、何をすることができののだろうか、と思っていたのですが、全体を通して想像以上の有意義な時間を過ごさせてもらうことになりました。

各訪問地で感じることは多かったです。その中でも一番印象に残っている場所はエローラ石窟群です。複数ある石窟の一部を見学させても

ていました。頭で考えていたモノを遥かに凌ぐ石窟群の重量感、雰囲気、そんなものがその場にはありました。圧倒される、という事を目の当たりにしたので。そしてまた、その圧倒されるほどの石窟群が人の手で掘られ、作り上げられている、という事実に、改めて驚愕する思いでした。

そしてそこで思う事がありました。「知っている、と、分かっていて、と、分かっていないのだ」という事です。知る、という事を軽視するつもりもないですし、その対象物に興味・関心を持つ、という意味でも、とても意義のある事だと思えます。しかし「知る」分ける」であるとしてしまうと、ある種の歪みが生じてしまうような気がしたのです。知識ではなく、自分の体験・体感がいかに大切なのか、という事が腑に落ちた瞬間でした。

また、今まで「仏教」というと「自分には難しい話」と思う事が多かったです。しかし、今回の研修旅行中、様々な仏跡を巡り、また、多くの方丈様からお話を伺う機会があったこともあり、仏教が私にとつて格段に身近なモノになりました。これもまた、大きな収穫だったのではないかな、と思います。

住職より一言

大湊さんは、お母様とともに、初めて遊行会（布教を志す曹洞宗僧侶の会）のインド仏跡巡拝の旅に参加されました。

僧侶中心のメンバーに打ち解けてくださったるか心配しましたが、どなたとも気さくに会話をされて、楽しんでる様子が伝わってきて本当に良かったと思います。

これからも、加茂市の実家にお帰りの際は、お母様と一緒に坐禅会や加茂法話会等において下さるのを心待ちにしております。



アジャンター洞窟にて、筆者左端 平成30年2月27日

【東龍寺年中行持】

- 六月 金毘羅大祭
- 八月一日 うらぼん会(盆参)
- 八月廿四日 水子地藏尊並びに・観音様大祭
- 九月廿三日 秋のお彼岸会 (お彼岸の中日)
- 十月十日 常齋米法要
- 十二月三十一日 除夜祭(除夜の鐘)

- 一月一日 大般若祈禱会
- 一月一日 寺年始(近隣の檀家)
- 一月二日 寺年始(遠方の檀家)
- 三月廿一日 春のお彼岸会 (お彼岸の中日)

【平成三十年度事業、行持報告】
 一、六月二十九日～七月二日 本堂裏庭の池の泥上げを行った



本堂裏庭池の泥上げ 6月29日

一、七月五日(木)～七日(土)に、駒澤大学教授角田泰隆老師を講師にお招きし、第十七回眼蔵会を、講本「行持」の巻(三回目)で開催した。
 一、七月十一日(水) 午前十一時より、第二十九回金毘羅大祭を議員四十名の参加で行った。

- 一、七月十四日、十五日位牌堂脇の杉と桜の伐採。
- 一、七月二十四日、墓地の山の水配管工事。
- 一、七月二十六日、梵鐘脇の杉二本・銀杏、山田川脇の杉二本、伐採。



鐘楼堂脇、杉・銀杏、伐採 7月26日

- 一、八月二十四日(金)、第四十回水子地藏・第十九回聖観世音菩薩大祭を行った。長岡市寺泊・西生寺住職阿刀隆峰老師に、法話をお勤め戴いた。
- 一、八月二十九日、本堂入口の床板修理。
- 一、九月八日(土) 午後五時から、第九回湯田上温泉祭りの一環として、田上在住のソプラノ歌手・桑原純子氏を中心にクラシックコンサートが、本堂で行われた。
- 一、十月五日(金) 午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師にネルケ無方老師をお招きし、第二十三回秋の講演会を行った。
- 一、十月二十五日、午後二時三十分～十六時、住職は、東龍寺の所属する新潟県第四宗務所第三教区護持会初の試みである秋の講演会で、法話

を勤めた。約百名参加。於・サルナート吉運堂。

【東龍寺への団体参拝】

- 一、八月二十三日、神奈川県第一宗務所第一教区団 参八十一名 (内寺院十三名)で来山。本堂にて、住職が四十五分ほど東龍寺沿革を中心に話をした。お話をした。丁度、この時間、新潟県は猛暑の中、初の四十度を超えた。



8月23日 参拝会 神奈川県一護持会 団参 住職が四十五分ほど東龍寺沿革を中心に話をした。お話をした。丁度、この時間、新潟県は猛暑の中、初の四十度を超えた。

- 一、九月二十六日午後二時～三時、新潟市消費者協会新津支部一行十二名、沿革説明と諸堂案内。
- 一、十一月十二日午前十分～十分一十分三十分「中之口大学 名所・史跡・探訪セミナー」、老人二十名、諸堂案内と法話。
- 一、十一月十六日午前十時～十一時、矢代田「花の会」十五名、沿革説明と諸堂案内。学校三年生親子。五十六名(内子供二十九名)。
- 一、三月十五日、NHK文化センター「坐禅に親しむ」の会員七名、東龍寺で坐禅二炷、中食。
- 一、四月十一日、加茂農林高校「生物工学科・生命情報コース」一年生。二十五名。

【参拝の報告】

- 一、五月十二日、加茂中学校野球部、二十六名。
- 一、六月十二日、田上小学校三年生親子。六十六名(内子供三十四名)。
- 一、七月七日、埼玉県新座市「パートナーズ」一行十二名。
- 一、七月二十五日、国際ホテルブライダル専門学校(NSG)。八名。
- 一、八月二十七日朝、千葉中央バス「ふれあいの会」一行十五名。



加茂農林高校1年生 4月11日



第38回卯辰会の集い 4月20日

- 一、四月二十日、「第三十八回卯辰会の集い」。十四名。

一、九月二十日、NHK文化センター「坐禅に親しむ」の会員七名、東龍寺で坐禅二炷、中食。



NHK文化センター坐禅16期、9月20日

一、九月二十八日夕方、県央消防応援協定協議会一行、十四名、十月二十四日、千葉中央バス主催「ふれあいの会」六名。



月湯公民館、小学生と大人、参禅 11月3日

一、十一月三日、月湯公民館、小学生と大人、十四名(内小学生六名)。

一、十一月八日、千葉中央バス主催「ふれあいの会」十六名。
 一、十一月十六日、千葉中央バス主催「ふれあいの会」十六名。
 一、一月十三日、東部運送、二四名。
【平成三十一年度事業、行持案内】
 一、七月三日(水)〜五日(金)に、

駒澤大学教授角田泰隆老師を講師にお招きし、第十八回眼蔵会を講本「行持の巻(四回目)」で、開催する。

一、十月十三日(日)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師に元大本山永平寺副監院・奈良県平等寺住職丸子孝法老師をお招きし、第二十四回秋の講演会を予定している。

【寄付御礼】

一、一月に、中店・馬場賢藏家より、金屏風をご寄付頂いた。

【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市上町コミュニティセンターの二階を貸り、新たに湯川・安龍寺副住職齋藤隆光師が加わり、僧侶十名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日(夜七時半より)行っています。お気軽にご参加ください。



月例坐禅会皆勤賞授与の様子 12月8日

【心の癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の午後四時から、約一時間、湯田上温

泉宿泊者に坐禅修行体験をしていただいております。

但し、八月・十一月〜三月は、お休みしています。

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【お寺よりの御礼とお願い】

一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解と協力をお願いいたします。

- 【お盆前】新瀧・亀田・三条・巻・燕・白根
- 【十三日住職】新津・中山・赤洪・笠巻・三ツ屋・三枚潟・市ノ瀬・覚路津
- 【お盆中住職】湯川・谷・中店・山崎・山田・湯古屋・加茂地区

曹洞宗 心の電話 ☎0120-508-740
 携帯電話の方は ☎03-3454-5410

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。
 東龍寺住職も平成30年度まで、13年間つとめさせて頂きました。

永平寺 電話説法 ☎0776-63-3399
 役寮が、10日ごとに代わって、3〜5分の法話を行なっています。

【光明寺様】川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場・羽生田・川船河
 【少林寺】上野
 【少林寺若様】本田上
 尚、当日多少の変更が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

編集後記

寺報三十一号を発刊するに当たり、細野徳彰師、田巻亮輔氏、中川徹氏、丸山ゆかり氏、大湊加奈子氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後皆様のご寄稿をお待ちしております。

昨年の十一月に私が本山で修行時代から、ご教導を頂いた永平寺顧問・元副監院の福井県興禅寺住職木崎浩哉老師が九十三歳で遷化されました。本山時代の老師は、どなたにもいつも笑顔でやさしく接しられ、怒った様子を見たことがありませんでした。また、いつお部屋を訪ねても机に向かっておられ、横になって休まれている姿を見たことがありませんでした。

東龍寺の先々代(私の祖父)が、いつも人には春風のようにやさしく、自分には秋の霜のように厳しく「春風秋霜」を心掛けなさいと言っておりましたが、木崎老師のご生涯はまさにこの教えのごとくであったと深く敬慕しております。私も是非こうありたいと念じております。

住職 合掌